

八丈島 水産だより

7月号

2013



ハイビスカス



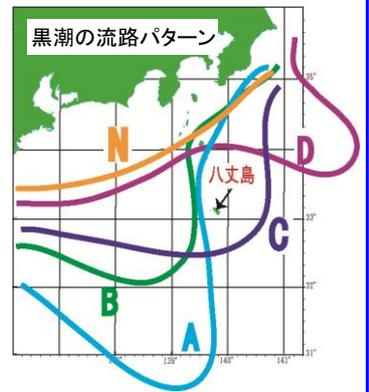
保安林での植樹の様子

島のあちらこちらにあるハイビスカスが色鮮やかな花を咲かせて、本格的な夏の訪れを告げています。

強い風から田畑や住宅を守る「防風保安林」をつくるために、地元小学4年生によるクロマツの植樹が行われました。事前の授業で森の大切さを学んだ子供たちは、元気に育ってくれることを願いながら、1本ずつ真剣に植えていました。

黒潮の蛇行

黒潮は、日本列島の太平洋側を西から東へ流れる暖流で、海の中にある大きな川のようなものです。その幅は50~100km、人が歩く2倍ほどの速さで流れています。運ばれる海水の量は毎秒5,000万トンに達します。プランクトンが少ないため透明度が高く、光が深くまで届き、濃い青色に見えることから「黒潮」という名前がついたと言われています。流れ方は右図のように、大きく5つの型に分けられます。



今年4月上旬、黒潮はN型と呼ばれる直線的な流れをしていましたが、だんだんと蛇行しはじめ、5月後半にはC型と呼ばれる八丈島の南側を回るような流れになりました。黒潮が蛇行すると、黒潮と本州南岸の間に下層の冷たい水が湧き上がり、冷水塊と呼ばれる冷たい大きな海水の塊が発生することがよくあります。冷水塊に覆われた八丈島では、漁港での海水温が18~20℃と例年より2~3℃低くなりました。さらに干潮の時、大きく潮が引くために、ふだんは海の中にある岩などが水面から出てしまい、海藻が枯れて白くなり、磯が真っ白に見えました。



大きく潮が引いている磯

